

事業名	平成 17～21 年度の目標	近年の状況	評価及び反省点	担当課名
乳幼児医療費助成事業	今後も県の事業に合わせて実施していきます。	平成 21 年 10 月診療分より、通院・入院ともに対象年齢を小学 6 年生まで拡大(所得制限なし)しています。県制度は、就学前児童までで所得制限あり。	県事業に上乗せして制度を拡充し、目標を上回る内容となっています。	健康福祉課
各民間団体との連携	今後も各団体との連携、活動の支援を行い、地域での子育て力の向上に努めていきます。	健康福祉センターかわせみや、文化センターなどを拠点とし、行政・民間団体が連携して事業やイベントを実施しています。	各団体ごとにイベントなどでの連携・活動支援は行っていますが、団体を繋ぐ横断的な支援はまだまだ不十分な状況です。	
佐川・越知・日高広域シルバー人材センター		事業継続。一般的な認知度はまだ低く、利用頻度は少ない状況です。		
子どもの未来を語る会		講演や各会合等を通じ、地域に情報を発信しています。また、10 年ぶりに「佐川町子育て実態調査」を実施しています。		



事業名	平成 17～21 年度の目標	近年の状況	評価及び反省点	担当課名
子育てサークル・託児所	今後も各団体との連携、活動の支援を行い、地域での子育て力の向上に努めていきます。	左記の団体のほか、平成 21 年度に「母乳サークル」が結成され、自主活動を行いながら、健康福祉センターかわせみでの「ごっくんくらぶ」への参加や、行政との連携も図っています。	各団体ごとにイベントなどでの連携・活動支援は行っていますが、団体を繋ぐ横断的な支援はまだまだ不十分な状況です。	民間団体
おもちゃの図書館「さくらんぼ」		現在、特別養護老人ホーム「春日荘」の中にありますが、感染症対策など施設管理上の問題があり、新たな場所の確保が課題となっています。		
図書館・文庫		町立図書館では、図書館だよりを定期的に発行しています。 また、平成 19 年度に視覚障害者用の拡大読書器を導入し施設の充実を図っています。		
佐川親と子のアートミュージアム&エコ倶楽部		引き続き、各種活動に取り組んでいます。		
JA コスモスによる小学生の農業体験学習		JA コスモスでの事業を引き継いで、各学校で独自に農業体験を実施しています。		

(2) 保育サービスの充実

事業名	平成 17～21 年度の 目標	近年の状況	評価及び反省点	担当 課名
通常保育事業	本計画期間中におきましても、児童数の伸びは見込めないため、保育所(園)は現在の状態を維持し、内容の充実に努めます。	7 園の保育所は変わらず。少子化に伴い、園児数、定員ともに減少傾向には歯止めが掛かっていません。	各園とも創意工夫を凝らし、保育内容の充実を図っています。	健康福祉課
延長保育事業	民間の保育園の創意工夫と経営努力に期待し、財政の厳しい中ではありますが、今後も継続して経費補助等の支援を行っています。	平成 21 年度においては、尾川中央保育園を除く 4 園で実施しています。	おおむねニーズに対応できています。	
休日保育事業	今後、ニーズの動向を把握しながら財政確保等に努めます。	一定のニーズ量は見込まれるものの、財源確保は困難な状況であり未実施です。	財政難の折、事業実施のための条件は整いませんでした。	
一時保育事業	今後は町財政の状態や住民ニーズの変化を見極めながら対応していきます。	国の職員配置基準の変更などにより平成 21 年 4 月から 9 月までいったん事業を休止していましたが、現在は引き続き、町単独事業として若草保育園で実施しています。	1 園での実施にとどまっていますが、ニーズにはおおむね対応できています。	
乳幼児健康支援 一時預かり事業 (病後児保育)	今後、町内の小児医療機関等との連携も含め、引き続き検討していきます。	実施できていません。ただし、ニーズは確実に高まっており、早期実施に向け具体策を検討中です。	実施には至っていませんが、具体策の検討は進んでいます。	
乳児保育促進事業	女性の社会進出や核家族化等に伴い、乳幼児保育の需要が拡大しているため、今後も経費の補助を行い、乳幼児保育の推進を図ります。	私立 5 園は補助事業として引き続き実施しています。公立 2 園も乳児の受け入れは要望に応じ柔軟に対応(一般財源)しています。	まれに保育士の確保が難しいなどにより第 1 希望の保育園に入れない場合もありますが、おおむねニーズに応じ、乳児の受け入れができています。	

事業名	平成 17～21 年度の 目標	近年の状況	評価及び反省点	担当 課名
障害児保育事業	障害児保育を実施している保育園に対して、今後も経費の補助を行っていきます。	継続して事業を実施しています。加配保育士の対応など、障害児の受け入れに対し、必要な経費の補助を行っています。公立は一般財源で対応しています。	おおむねニーズに応じた対応ができています。	健康福祉課
地域保育センター活動事業	今後も引き続き事業を実施します。	保育所体験特別事業として継続実施しています。園庭開放や地域との交流、保護者に対する講演会など、各園で特色ある事業を展開しています。	地域との交流を含め、各園とも工夫を凝らして事業を実施できています。	
放課後児童クラブ	今後も引き続き、現在のクラブ数1箇所、定員数20名で継続し、事業内容の充実に努めます。	平成20年度より、佐川小学校での放課後児童クラブに加え、町内4ヶ所（斗賀野小学校、尾川小学校、黒岩小学校、さかわ児童館）で放課後子ども教室を実施。これによりすべての校区（学校）で、児童に居場所の提供ができるようになった。また開設時間も、児童クラブ、子ども教室とも下校時より午後6時までとし、保護者の利便性を図っています。 登録児童数 佐川小45名、斗賀野小50名、尾川小28名、黒岩小14名、さかわ児童館17名（平成20年度実績） ※ 児童館は平成21年度から廃止	国の方針に基づき、放課後子ども教室を開設したことにより、目標を大きく上回る結果となっています。	教育委員会

(3) 児童の健全育成の取り組み推進

事業名	平成 17～21 年度の 目標	近年の状況	評価及び反省点	担当 課名
児童館活動事業	児童館の位置が学校から離れているために利用しにくいことや、各学区ごとの設置が財政的に難しいことが課題となっており、今後はよりよい児童館の管理運営、活動の充実に取り組んでいきます。	児童館の延べ利用者数は平成20年度で約1400人です。(月一度、主に土曜日の午前中に実施しているわんぱく広場事業に約470人。) 児童館の認知度が高く、新規利用者を含め年々利用者が増加しています。佐川小学校、斗賀野小学校の児童が多く、保育園児や高校生の利用もある。遊びの指導に消耗品の消費が早くなっています。	児童数の減少や地理的な問題がありながら、利用者が増加しているのは一定評価できます。	教育委員会
子育てサポート事業	今後も引き続き事業を実施していきます。	この事業名で、教育相談を配置し、別枠に記載の教育相談を実施中です。	計画どおり事業を実施できています。	
地域教育推進協議会	各地域に行事等をコーディネートできる人が少なくなっており、今後地域で自立して行事等ができるように、地域ぐるみで活動できる体制づくりに努めます。	地域教育指導主事の配置が平成18年度から切れ、母体である地域教育推進協議会も年1回の事業報告にとどまっています。 活動が続けている事業は、中学生職業体験学習、あいさつ標語、高岡教育総合フェスタ、わんぱく広場事業、防犯パトロール、小中高連携ボランティア活動等で、担当部署を割り振って実施中です。	地域教育指導主事がいなくなったことにより活動内容に影響が出ていますが、職業体験学習など引き続き事業を行うなかで地域づくりの一員として活動しています。	

事業名	平成 17～21 年度の 目標	近年の状況	評価及び反省点	担当 課名
地域子ども教室	平成 16 年度まで実施していたウィークエンドキッズの取り組み内容を、今後は地域子ども教室において実施し、地域の自主的な活動につなげていくよう努めます。	県補助「地域子ども教室」は「放課後子どもプラン」に移行し、佐川町では「放課後子ども教室」を実施中（放課後児童クラブ欄に掲載）です。 ウィークエンドキッズで実施していた「あぐりキッズスクール」は JA で、「化石教室」は地質館で、「ドッジボール教室」等は総合型地域スポーツクラブで、「巡回児童劇」「親子映画会」「クリスマスケーキ作り」等は児童館でとそれぞれの機関で活動が続けられています。	各取り組みはそれぞれの機関で引き続き実施できていますが、制度の関係上、計画時の目標に掲げた事業展開とはなっていません。	教育委員会



2 母子保健・医療体制

(1) 子どもや母親の健康確保

事業名	平成 17～21 年度の目標	近年の状況	評価及び反省点	担当課名
パパ・ママルーム (妊婦教室)	平成 17 年度以降は教室としての開催は行わず、妊婦への個別支援として取り組んでいきます。また「子育て応援事業」への参加へつなげていきます。	妊婦への個別支援を継続しています。	妊婦健診の助成が 14 回に増えるなど、経済的支援は充実してきましたが、子育て応援事業の参加者の増加には必ずしも繋がっていません。	健康福祉課
ごっくんくらぶ(母乳育児相談)	「母乳相談補助券」の利用者は「ごっくんくらぶ」との併用が多く、乳房のトラブルが起きた時の相談の場となっています。しかし、一方で「乳房マッサージ＝母乳の出をよくする」というイメージが強く、利用の必要がないと思っている方が多いという状態にあります。	乳幼児の母親に対し、健康福祉センターかわせみで離乳食の実習など、食の集まりを実施しています(月 1 回)。		
「母乳相談補助券の配布」	今後、日頃の生活スタイルや食生活を見直し、本来の目的である「おいしいおっぱい」を出すために、事業の周知を図り、より多くの方の参加を促していきます。	より利用しやすいよう平成 21 年度より制度をさらに拡充しています(子どもの 2 歳の誕生日の前日まで、配布数 30 枚まで)。		